

令和2年度 児童・保護者・教職員アンケートから見る 結果分析及び対策について

自主学習

各教科等において学習課題や学習活動を選択する機会を設け、自主的、自発的な学びへの興味・関心を高める。

- 【児童】 授業に自分からすすんで取り組んでいる。 87.2%
読書や自学ノートなど、家庭で自主学習を工夫して取り組んだ。 77.2%
(低学年 いえで本をよんだりすすんでべんきょうしたりしている。)
相手の意見を聞き理由をあげながら賛成意見や反対意見を述べるができる。 78.0%
(低学年 じぶんのかんがえを、さいごまでわかりやすくつたえることができる。)
(中学年 自分の考えを、理由をあげながら相手に伝えることができる。)
- 【保護者】 本校は、学習への興味・関心を高め、子供たちが主体的に学習を進めることができるよう指導を工夫している。 80.6%
- 【教職員】 児童が主体的に課題探究し、表現する授業を計画的に実施し、自主学習の方法を身に付けさせることができた。 88.0%

(分析) 87.2%の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答し、学習意欲が高いと言える。7月の調査結果80.3%からも増加した。コロナ禍で、座席を離しての学習や教師対児童の一斉学習が中心となっていた6、7月から、感染対策が保てる範囲でグループでの話し合い活動を行うようになり、対話的な学習が増えたためだと考える。しかし、自分の考えを伝えることについては、まだ自信をもてない児童が相当数いることが分かった。

家庭で工夫して学習に取り組む子の割合についても8割に満たないものの、7月の調査結果71.3%から6ポイント増加している。児童の様子から、自分に必要だと思うことや興味関心のあることを学ぼうとする態度が育ちつつあると感じている。

(対策) 対話的な学びが主体的な学びにつながることを実感した。次年度も引き続き協働しながら学び合うことを重視した指導を継続していきたい。

幅広い読書活動については、「学校や家でよく本(漫画・雑誌を除く)を読んでいる」と回答した児童の割合が75.5%、「親子読書等を通して、お子様の読書への興味・関心が高まった」と回答した保護者の割合が48.9%と低く、自主学習と併せて次年度に取組を充実させていきたい。また今年度は、グループ内で1冊のノートに自分の学びを記録して順番に回し、互いの学びの様子を見合うなど、各学年で取組を工夫してきた。効果のあった取組を共有・整理するとともに、学校全体で発達段階に応じた自主学習の在り方についてスタンダードづくりに着手したい。

人権学習

道徳科や学級活動における話し合い活動やエンカウンター等の活動を通して、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

- 【児童】 道徳の時間には考えを深めることができる。 86.4%
自分はいじめを見たら、大人の人に知らせたり、とめたりすることができる。 79.1%
- 【保護者】 本校は、いじめの未然防止や早期発見・解決に努めている。 71.6%
- 【教職員】 本校は、道徳の授業時間を確保し、心を見つめさせたり生き方について考えさせたりする指導を工夫している。 96.0%

(分析) 道徳強化期間の設定や道徳授業の教員研修などの道徳に関する指導を充実させてきたことが、成果に表れている。「いじめを見たら大人に知らせたりとめたりすることができる」と回答した児童は、昨年度と比べて2.2ポイント上がってはいるものの依然として目標の8割には到達していない。また、保護者による学校の取組への評価が71.6%と、昨年度より15ポイント以上減少した。今年度はすべての回答選択肢に「分からない」を追加した。本項目では19.6%の保護者が「分からない」と回答しており、学校での取組が保護者に伝わっていないことが明確になった。

(対策) 来年度、県教委から委託される予定の道徳教育総合推進事業「親子で学ぶ道徳講座」において、テーマを人権教育に設定して取り組んでいきたい。本校では、児童対象に月末の「心のチェックカード」や年2回の個人面談「ふれあい相談会」、保護者対象に年2回のいじめアンケートを実施して、いじめの早期発見・早期対応を図ってきた。今年度は保護者に授業を公開することができず、学校生活の様子が分かりづらかったことが調査結果に影響していると考え。今年度の取組の継続とともに、日頃からの学級担任及び教科担任等による児童の観察を密に行い、保護者とこまめに連絡を取り合っていきたい。また、次年度の授業参観の在り方や人権教育に保護者も参加できるような取組を実践していきたい。

道徳教育総合推進事業「親子で学ぶ道徳講座」

道徳教育の質の向上とその一層の充実を図るため、地域や親子のコミュニケーションや、世代を超えた道徳的価値の交流を通して、家庭と地域の連携を深めるとともに児童生徒の道徳性を地域社会全体で高める。

個に応じた指導

個に応じたためあてが達成できるよう、一人一人の良さや成長を認め、伸ばす学習評価を実施する。

【児童】	自分には、よいところがあると思う。 授業がよく分かる。	83.5% 92.7%
【保護者】	学校は、子供たち一人一人を大切にし、温かく指導している。 子供のことで気軽に学校に相談できる。	85.1% 79.5%
【教職員】	本校は、一人一人の良さや成長を児童自身が自覚できるような振り返りの場を設定し、発達段階や個に応じた授業づくりに、熱心に取り組んでいる。 本校は、保護者や関係機関と連携をとったり、校内で情報を共有したりして、課題を抱える子供に十分な支援を行っている。	92.3% 92.6%

(分析) ほぼ全ての項目で肯定的な回答の割合が目標の8割を達成している。特に「授業がよく分かる」と回答した児童と、「授業づくりに、熱心に取り組んでいる」と回答した教職員の割合が9割を越え、一定の成果が得られたと考える。

「子供のことで気軽に学校に相談できる」と回答した保護者の割合が昨年度より5ポイント減少している。前項と同様に、授業参観や各種行事の中止で保護者と面談する機会が年2回の個人懇談のみとなったことも影響していると考え。学校からの情報発信についての質問項目では9割近くの保護者が肯定的な回答をしているが、双方向のつながりという点では不十分だったと思われる。

(対策) 今年度の取組を通じて、めあての設定とめあてに応じた振り返りを充実させること、児童が協働して取り組む活動や他者評価を意図的に設けることによって、児童が自分の良さに気付き自信をもつことを実感した。次年度は、教科等の学習だけでなく特別活動においても、取組を定着させていきたい。

また活動の様子を保護者に伝え、保護者からのコメントをもらうことを通して、双方向のつながりを円滑に行う手助けとし、保護者が相談しやすい関係づくりにつなげていきたい。

ネット利用や情報モラルに関する学習

家庭や外部機関と連携し、スマートルールや情報モラルについて考える機会をもつ。

【児童】	みのりっ子スマートルールを守っている。	74.1%
【保護者】	みのりっ子スマートルールについてお子様と内容や実践状況について話し合っている。	68.3%
【教職員】	ネット利用、情報モラル等を含む学校・家庭生活におけるルールやマナーについて、教職員が共通認識のもと、継続的に指導することができた。	92.0%

(分析) 長期にわたる外出自粛の休業期間をきっかけとして、オンラインゲームや SNS に長い時間を費やすようになった児童が少なくない。学校では3年生以上の児童を対象に、毎年「インターネットの上手な付き合い方」の学習を外部から講師を招いて行っているが、特に高学年になるにつれてネットの利用は増えておりスマートルールの徹底が進まない。

(対策) 次年度から、児童用の iPad 活用の機会が増え、ますます情報機器の適切な活用について指導する必要がある。児童への指導を計画的・継続的に行うとともに、教育振興会とも連携して、ネットの利便性と危険性に対する保護者の認識を高める方策を検討していきたい。

学校関係者評価委員からは、共働きの家庭では祖父母が下校後の子供の様子を見ていることが多く、ネットに使い慣れていない祖父母世代の高齢者を対象にした講習会も必要ではないかとの意見を得た。家庭との連携を図る際には、祖父母を含めた保護者への啓発の機会を是非設定したい。